

* 聖書は「義か不義か」「生か死か」「熱いか冷たいか」「救いか滅びか」など、どちらを選択するのか私たちに求める。日本文化の特質かもしれない中間や曖昧はない。今回は「祝福」か「のろい」かである。

「というのは、律法の行いによる人々はすべて、のろいのもとにあるからです。こう書いてあります。『律法の書に書いてある、すべてのことを堅く守って実行しなければ、だれでもみな、のろわれる。』」(ガラテヤ3:10) 申命記28章他にあるように、主の御声によく聞き従い、すべての命令を守りおこなうなら、祝福される。反対に、主の御声に聴き従わず、全ての命令とおきてを守り行わないなら、あなたはのろわれる、とイスラエルの民は、神から告げられた。彼らは当然祝福を受けたいので、神の命令、すなわち律法を守ろうとした。この、神が契約された民族としてのアイデンティティを保つためには、共通の神の言葉を一人ひとりが頭と心にしっかりと焼き付けておく必要があった。統一と力を得るためには「律法」がどうしても必要であった。それ故必死に守ろうとしたのである。

* しかし「律法の行いによる人々は、すべてののろいのもとにある」とパウロは言う。「律法の行いによる」とは、律法を落度なく行うことによって救われる、と考える人たちのことであり、律法を守ることに汲々として、律法を与えてくださった神への信仰がおろそかになっていることを言っている。彼らは何度も神に不平不満をいい、異教の神に染まって偶像の神を拝んでしまった事実がある。イスラエルの民だけではなく、異邦人も含めて人間は神の律法を完全には守れない存在なのである。

* 現在の私たちにとって「律法を守る」とは「神のみこころにかなった良い行いをする」ということ、自分の力で、人間の力で救われようとするということと同じである。しかし、生まれつき罪人である私たちは神の言葉も守れない、良い行いもし続けることができない。そのままでは神に呪われるしかない悲惨な中にいるのである。そこで愛の神は私たちに助け舟をだしてくださった。それがイエス・キリストという方である。「キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちが律法ののろいから贖い出してくださいました。なぜなら、『木にかけられる者はすべてののろわれたものである』と書いてあるからです。」(ガラテヤ3:13) 「律法ののろい」とは「律法を守れないことによる神の私たちに對するのろい」という意味である。十字架は神の呪いをあらわす。御子イエスは律法を完全におこなうことのできる唯一の方。罪のない聖い方であった。私たちが受けるべき神の呪いを身代わりに主イエスが受けてくださったのである。こうして、神の呪いは祝福に変わるのである。このことを信じる信仰によって私たちは救われ、神ののろいから解放されるのである。